

刊夕日八廿月一十

常警 每日新聞

定額一圓五角
 廣告料五號十二字第一行金五拾錢
 日曜祭日の翌日休刊
 發行所 常警毎日新聞社
 印刷所 常警毎日新聞社



必至 減度の願

真繼 雲山

(二)

名譽のヘチマのと、そのやうな果敢ない固着をはなれて、真空の上に妙有を現し、その妙有に永存の生命を容すといふことなら申し分なき味はひである。神社佛閣も、名山靈場も、ことごとく何人かの創作したる生命の永存であり、それによつて後の生命が培はれてゆくのである。

近頃、何々記念碑、何某の銅像といふのが流行し一字でも自慢話をヨリ多く刻み込んで置かうとの方略と見るが、聖者の遺影を寫して濁悪の末法を淨化せんといふなら兎に角あんなものはアト五萬年か十萬年もすれば吹ッ飛んでしまつたわ

高月會句抄

鷺

萬紅葉垣根覆ひけり公郷屋敷
 鳥の來て葉の落し行く深山萬
 敗殘の古城の萬や流れ雲
 溪川に三ヶ年照りぬ萬赤し
 樵夫二人黙つて渡る萬の橋

湖晴 紅果 紅果 千鳥 良亭

(五)

いのないものだ。矢はり山の奥に山櫻が咲き野の涯に野菊がこぼれてゐるといふ名間をはなれた自然の流露真如の化現として床しい。

現代人の仕草は兎かく名聞といふ臭味が附いてまわるゆゑ天來の風味が臺なしとなる。昔の人は靈山を開き當塔を建立するにしても必至減度のことわりを如實に體して文字通りの草鞋ばき、街頭に立ち乞食をして迄も佛祖の恩に報ぜられたる命がけの發願でありし故に、後のこれを拜するものが、そこに佛の慈光に浴し

ノット

鶏卵の黄身の成分中には硫黄を含んでゐます。硫黄は非常に銀を黒くするものですから、玉子料理を銀の器に容れると曇りが生じます。

得るのである。仰山らしき

管長衛の御親教を縁にして何百萬圓といふ勸募沙汰に果たして幾ばくの感激と宗教味を汲み得べきか。

現代人は今も昔に變らず泣くに泣かれず、死ぬに死なれぬ苦しみに藻掻いてゐるのだ。越し方も知らず行

二明日の献立

【朝】すまし汁 ねぎと豆腐

【書】八つ頭 ごぼう こんにやく かれひあられ 生姜の煮べ

【晩】かき貝の酢の物

く先も辨へぬ薄縁の衆生に必至減度た、白骨のことわりを教へて至樂の法悦をめぐみ有無をはなれしむること今日只今より急なるはなし。人々たゞ白骨と知りなば、やがて減度成就をも願ひて今少し、ゆとりのあるなごやかな世の中にも成り得ると思ふ。減度を願ふとは淨土に生れたいといふ信心のさざしであり、その信心によつて現身がそのまゝ救はれるのである。〔完〕

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院

平町南町 電一七〇

改築披露 最新式設備ト 進歩セル技術 岡山寫眞館

電六 一五

高級貸切 不二タクシ

電三 二

金銀高價買入

質札は(金時計鎖指輪類)有利に御相談致します 平町二丁目(三幸堂跡)

根本時計店

電話六〇七番

どんな病でも必ず治る

オキシヘーラー

オキシヘーラー は心臓の働きを正しく強し、如何なる難症も熱心繼續治療によつて必ず治療す、殊に急性症の治りの急速なること眞に驚嘆の外なし。

◎盲腸炎、腹膜炎、胃腸諸病、食物中毒、中耳炎、腎臓病、膀胱喘息、骨膜炎、丹毒、流行性感冒、氣管支カタル、肺炎、神経痛、リウマチス等にて高熱や激痛に悩まされる方、心臓の弱りたる方、其他如何なる急性慢性症の方も時をうつつさず當實驗所の治療に依つて速かに御快癒なされん事を

オキシヘーラー は餘りに手遅れにならざればどんな病も手術の要なく完全に治療す。

治療料一回金五十錢、出張治療町内一回金壹圓 但し出張治療は場合により異なることあり。

七ヶ郡一手販賣と實驗治療 原田 良節

オキシヘーラー 平實驗所

平町田町役場通り四九

外科 X線科 性病科 外科

平町 田町

安齊外科醫院

電話四七五番

意隨月入

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五五番

福引付 吳服大賣出し

十一月廿五日より十一月一日まで 昂騰前に仕入れた最安値品と本年最新柄を豊富に取り揃へ大提供何卒御用命を

金貳圓御買上毎に福引券

福引一丸帯 コート 銘仙 座布團(五枚) 空鏡 景品 ニコト 御風呂敷 御手富貴等々 一なし

◎御婚 禮祝 着 豊 富

七五三祝者 寫眞付特賣

◎金拾圓以上御買上.....合 判(三枚壹組) ◎金貳拾圓御買上.....キヤビネ(ツツ呈上)

○縮緬 友禪 富士絹友禪 ○新柄モス友禪 尺三丸帯 ○御袴地 四ツ身紋付

お祈記念としえ無料撮影.....

●撮影は.....十二月十二日(但し福引は付キマセン)

三井吳服店

平町 電話 二三八

月曜是非

景氣の前途と

地方財界

爾價高以來淡いながらも前途に一脈の曙光を見出した當地經濟界は其の後常磐炭礦界が多年の懸案たりし炭價の上昇の成功を見るに及んで、俄然急激なる好轉歩調を示すに至り早くも好景氣來を叫ぶるに至つた此の地方財界好轉が果して恒久的のものである否かは別として未曾有の大不況下に苦吟しつゝあつた地方にとつて此の現象は早天の慈雨にも増す一大欣快事である事に疑ひない。

地方財界の好轉て此の喜ぶべき現象が勿論爲替相場の下落と現政府のインフレーション政策に依る物價高に由來してゐる以上、今後インフレーション政策の徹底的進行に伴つて一層其の度を強め今日漸くにして前途の曙光に喜ぶ當地經濟界をして一躍好轉飛身の潮流に突入せしむるであらう事も豫想される、たとへば望の黄金時代現出が夢想に終るとしても兎に角インフレーション政策の支持ざるゝ以上物價高は必然的のものであり、然も此の物價高に依つて誕生の息を吹込まれた地方財界人としては全力を擧げて此れが對策を講ずべきであらう、と同時に今にして漸く現はれた喜ぶべき此の潮流に棹すの用意を誤らざる様敢えて炫々唱するものである。

縣費補助を仰ぎ

災害復舊を急ぐ

郡内町村からの補助申請

十二萬圓に達す

這般本郡下に襲來した大暴風雨による被害は各方面共激甚で全町村擧げて此の復舊に努めてゐるが平土木監督所管内の土木被害に就いては監督所當局が全力を擧げて此の復舊を急ぐ事となり過般來全郡下町村に對し災害復舊ケ所の調査報告を促すと共に町村土木工事の被害復舊に要する縣費補助の申請を受け付けてゐたが今廿八日まで同所宛提出された申請補助額は合計十二萬四千八百六圓で此の工事種別は道路七、橋梁七、河川二五、港灣六、町村補助一〇計五十五に多種に及んで居る尙此の災害復舊補助金交付の申請に對しては近く内務省當局から現場査定官を特派される筈であるが未曹有の大被害であつただけに申請の九分通りまでは補助の實現を見るものと豫想されてゐる

平商途に雪辱

意氣詰まる接戦裡に

第一戦に警中を屠る

興味最高潮の決戦

警中平商定期野球第二回戦は警中一勝の後をうけて廿六日午後一時から警中球場に於いて鈴木、熊、中山三氏審判の下に平商先攻で試合開始、警中平商共に前日送り石坂、赤坂を第一陣に送つたが先攻の平商軍雪辱の意氣物凄く石坂を打捲つて一回早くも三点を先取すれば警中も杉浦を救援に起して、此れを防ぎ必死の力闘を試みたが及びず結局七對四で平商の雪辱成る

消防定期検閲

警署管内玉川鹿島好間水戸四ヶ村の秋期消防検閲は本日午前九時より一齊に行つたので小田部署長以下各係官が出席した

修養講演會

出席五百餘名

近來の大盛會

縣社會教育會主催の青年修養講演會は昨廿七日午前九時より小名濱小學校に於いて開會し出席者は五百餘名に達したが講者は縣社會課の佐藤弘毅氏及相馬農學校長の兩氏が新興郷土に就いての講演後各代議員の意見發表演説會を行つて四時散會した

役場事務室變更

紹介所は記者室に

平町役場では事務の繁雜を防ぐ爲め本日水道部及び職業紹介所事務室の位置を變更したが新職業紹介所は舎屋の一番東側に移り水道部各係は庶務會計等の事務所内に雜居する事となり舊水道事務所跡には水道並に土木の技術員室と變更され舊紹介所跡には新たに新聞記者室が設けられることになつた

濱三郡局長會

昨日平局に開會して

年賀郵便取扱の協議

濱三郡十五郵便局の局長會議は明廿七日午前九時より平局樓上に於いて開會來年度年賀郵便の取扱に就いて協議し終つて電話事務の講習會を開いた

勝した

草野收入役重任

石城郡草野村役場收入役大場武夫氏はこの程任期満了の爲め廿一日村會を開いた結果重任と決定した

平土木委員會

平町役場では昨廿七日午前十時より會議室に土木委員會を召集町有土地舊平陽女學校跡の地代未納金五百四十九圓の整理に就いて協議を行つた

平百面鏡

店頭に溢れる

七五三氣分

三井呉服店では二十五日から七五三御祝着の大賣出中だが品物が豊富に取揃へてある上に記念サービスの無料撮影が人氣を呼んで店頭は物凄い人波が渦巻いてゐる

冬物に躍る

モリタヤ洋品

五丁目モリタヤ洋品店では目下冬物タビ、メリヤス、シャツ等を初め種々豊富に取揃へ目下賣出して居るが品物が良く値が安い上に景品附として非常な人氣である

平町人事

回出生

△堤ノ内一七 當時青森縣上北郡野邊地町字一把野

小松一清氏二女敏子

結婚

△岐阜縣大垣市本町九八菱田義男氏(三〇)古鍛冶町九二齋藤恵子(二〇) 回死 亡 △立町百一鈴木キオ(七三)

美味!

芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

喫茶

食事



番六四話電

閑散な平署の留置場

悔んでよいやら悪るいやら

犯人激減で名刑事連の御難

浮浪人まで影をひそめる

各種犯罪の多い事と犯人検挙では断然縣下のトップを切り東北で一二を争ふ平署最近の検挙件数が激減して全然犯人の擧らない日が續く有様に縣内有数の腕を網羅する同署の刑事連は血眼になつて犯人の検挙に馬力をかけて居るが犯人らしいものゝ影さへも見えず躍氣の努力も甲斐なく不漁を嘆つてゐるが此ればかりは無理に製造する事も出来なだけに天晴名刑事連腕を撫でながら苦笑してゐるのは悔んでいゝやら喜こんでいゝやら犯人検挙の少いは目下全縣下で執行されてゐる匡救事業の徹底で昨今浮浪人が影をひそめた結果かららしい

漁濱救済義捐金

累計七百餘圓

平町鮮魚商及び蒲鉾業者間で募集中の漁濱救済義捐金中廿六七兩日の應募者は左の如くである

(拾圓) なかや洋服店 諸橋敬一郎 新藤屋支店 加藤丈夫 丸通運送丸 西村屋 吉田屋呉服店 馬目玉彌 柳田榮太郎 渡邊貫一 小田吉次(五圓) 鈴木亮 會津屋 仙臺屋呉服店 坂本隆藏 阿部政右工門 多田井笑 次郎 勇屋下駄店 關内 藥店 小野藥店 佐藤齒科醫院 川又章二 大竹 芳之助 丸ぼん 小野伊 佐治 太丸屋 大勝園茶店 日光商會 梅原利三

詐欺漢に

八ヶ月求刑 言渡は明日

新潟縣生れ目下住所不定左官職長澤松吉(三)が去る二十日石城郡植田町字金畑四十二番地料理屋店エビス事小林モヨ方に於て七圓四十五錢の無銭飲食をなした外前後十四回に亘り合計百圓餘を騙取した詐欺事件の公判は本日午前十一時より

祭の御神酒から

喧嘩が飛出す

平署に檢舉さる

石城郡夏井村大字荒田目字山根二八居住農鈴木英四郎(三)は去る廿四日の新嘗祭當日同村宮前大國神社の祭典に列席し神職山名隆貞方で飲酒中來合した同村菅波字新屋敷七農二十渡邊孝平(五)と縣社基本金の事から口論となり鈴木は傍に有つた打木槌を以つて渡邊の腰を刺し全治三週間の負傷を與へ尚も渡邊に打つて掛るのを神職の妻ナカ(三)が発見漸く取押へた事を平署に探知され目下傷害罪として取調中である

撞球大會

一等は辰野氏

平アマチア倶楽部主催撞球大會は二十七日午後二時から七十七銀行支店樓上で開催したが参加者三十餘名で頗る盛會であつた當日の入賞者は

一等辰野(片倉)二等小林(七十七)三等渡邊 四等中林(片倉)五等鈴木 カップ戦決勝 優勝鯨岡(湯本)二等高木 三等辰野 三等大谷

平安會法會

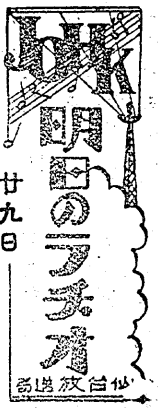
昨日嚴に執行

平町平安會主催舊平藩主安藤家先代信篤子の第十七回忌法會は廿七日午後一時から良善寺に於いて執行され

町會を召集

町有地を處分

平町當局では来る卅日か



明日のラジオ

廿九日

今晚も明日も 東の風曇時々小雨模様

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話し「わがやがやが」地質の話「野村七平」
後八、〇〇 「徴兵制六十年記念講演會特況」明治

明日の部

前九、一〇 料理献立「里

入營壯丁出發

平町仲町大野末七、白銀町小野寺文平、材木町佐々木正雄の三君は今回朝鮮成興歩兵七十四聯隊に入營する事になり来る卅日午前九時一分平驛發列車にて出發すると

川崎社長出京

本日歸社の豫定 川崎本社長は社用の爲め昨廿七日午前五時半平發列車で出京したが本日には歸社の豫定である

平農業倉庫 増築棟上式

來月二日に 決定 既報平農業倉庫では工費三千餘圓を以つて倉庫の増築に着工中であつたが來月二日盛大な上棟式を行ひ十二月中旬頃迄には竣功せしめて直に營業を開始する豫定である

町有地を處分

平町當局では来る卅日か

平裁判たより

石城郡内郷村大字内町字磐堰百九番地無職折笠西松(三)は去月二十八日午後七時頃同村大字宮磐城炭礦浴場で下遠野福太郎と口論の末平手で同人の頭面部等を毆打し全治約二週間の傷害を加へたので傷害罪として罰金二十圓

上野科醫院

平町 南町 電話二二九番

大塚の靴

斯界の權威!!! 自製編上靴 六圓 學生靴 女學生半靴 五圓 紳士靴 弊店自慢の 流行新形 平田町 大塚製靴部 電話七七番

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由に讀める 川崎巡 回文庫

(申込次第規則書進呈) 電六三〇番

外 科 婦 科 院 醫 坂 井

町 田 町 平 電 話 五 五 九 番

芋の甘露

中村光 後〇〇五 琵琶「瀧の口」 石川錦昭 後二〇〇 定庭大學講座 「明治の文學」早稻田大學 前一〇三〇 婦人講座 「婦人の行へ道」麻生正藏 教授 本間久雄 後五〇〇 受験講座「漢文講座」塚本哲三

後六〇〇 子供の時間

兒童劇「弓の百姓」仙臺詩話會童話會童話劇研究部 後七三〇 講演 後八〇〇 掛合嘶「長短のかつばれ」豊年齊梅坊主 後八三〇 新内「梅雨衣醉月情話」富士松加賀吉 後九〇〇 長根名曲演奏「操三番隻」芳村伊四郎外

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

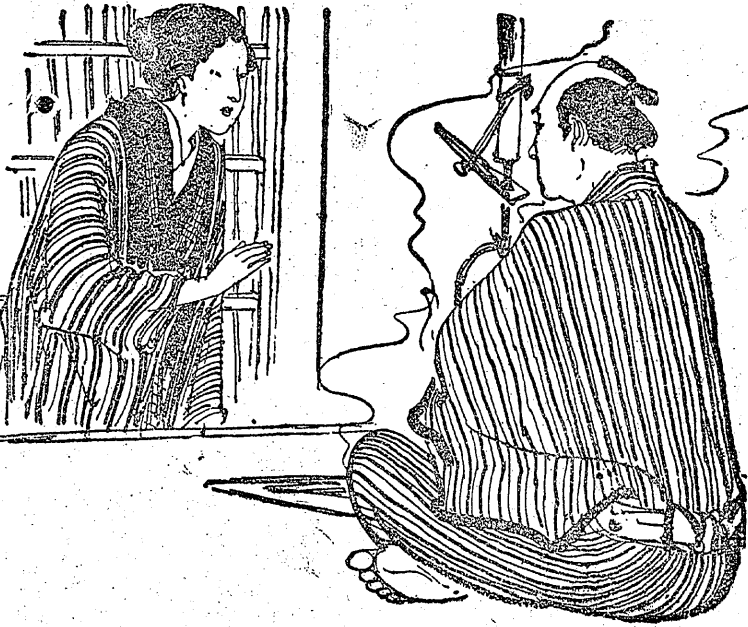
悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百十席 平

おしんの放瑠

洲の崎の名主の許では伴がなくなつたと大騒ぎ村中の者に手分けをして捜したが判らない、海へでもはまつて死んだものか、それとも神隠しにでもあつたのかとこのことはこれですみました、すると磯右衛門の女房おしんですが、夫の目を忍び不純な戀に陥入た、これは磯右衛門が名主の伴與之助を殺したといふ弱點を押へてゐるからこれに來た江戸者の髮結利助と云ふものと通じてましたが、さてこれが磯右衛門に感付かれたやうです、其處で己の衣類と甘雨さらつて利助の手を取つて立ち退いた磯右衛門は憎い奴だと一時は怒つたものゝさて考へて見ると憐れなつたも自分の時いた種、あゝモウ女にはこりたこれからは料理屋にも行かず身をつゝしみましたするとこの事あつてから三年後のことでしたが

○「御免なさいまし、磯右衛門さんぬさつしやるかね……」
と入つて來たはこの村にゐる大助と云ふ百姓
磯「これはお出でなさい、



し、さあさこの爐の前へ來なざるが……」
大「悪い時候でございますな、とんと雨がねえで百姓は困ります、時に磯右衛門どん、今日わしが來たはちつとべえ無理を聞いて貰は

うと思つて」
磯「ハテナそれはどんな事だね」
大「おしんどんがわしどもへ來て不心得を働いてすまねえことをした、利助とも別れたから元々通り磯右衛門さんの世話をしてくれと頼まうぞ託言をしてくれ頼ま

れて來ましたか」
磯「ハアおしんが歸つて來ましたか、まことにあなた顔をつぶして心苦しいが、あいつには再びこの地のぶくを跨がせる事は出來ませぬ、娘のお定がなくなつたのもあのおしん、その上色男をこしらへて金をさらつて逃げて行く、その男に捨てられて行く所がねえからと又こつちへ迷つて來たは不埒な奴あなた御親切には有難いがあれ返すと末には髪首をかゝれるであらう、まづお断り申す」
大「あさうですかわしも無

理と思つたが頼まれて來ました、ではおしんさんへこの事を申し傳へませう」
磯「いそがしい所を御苦勞さまでした、あの女は大變者だ、なよくのめ……とこの村に歸つて來た」
と呆れてゐる、すると表

女「御免なさいよ」
と聲をかけ入つて來たはおしん、磯右衛門はこれを見ると苦い顔をして磯「なんだ、なんだこれへ來た」
しん「なんで來たとは色氣のない御挨拶だね、まづ以てその後は打ちたえもしてお目にかゝりませぬが、いづもお繁昌でお目出度うございます」
磯「何を云やあがる、さつさと出て行け」
しん「イエエ私が出て行かないよ、こゝで佛になるつもりさ、ねえ磯右衛門さんお前はわたしを外へ出して置くとそのからだに繩のかゝるやうな事が出來るよ、なんだねそんな恐い顔をして目を三角にしてさ、アラマア帝釋様の畫像のやうなこと、ちよいとお前さん何うしても家へ入れる事は出來ないね、お内儀さんにした方がためになるだらう、それとも一旦悪い事をしたものだから何うしてもこゝへ入れる事は出來ないと云ふのかへ、モシ磯右衛門さんよく考へて御覽、わたしを入れつばお前の身のためにならないよ、この舌三寸で暗いところへ行かずばなるまい、三年前の九月のこと……」

磯「これ静かにしろ、隣には家がある、後にも人がすんでゐる」
しん「それだから私を家へ入れておくんなさいよ、それとも追出すかへ、一つに一つ何とか返事をしておく

れ」
磯「てめえは悪黨だな」と云つたが自分一人罪をかぶるわけではない、モシこの事が發覺すれば弟の藤次も罪をかぶる、名主の伴を殺したは俺であるがその死骸を埋たは弟でしからばこの事をおしんより訴へられれば弟も罪に陥ると斯う思つた。

般一物質
類券債種各
店質井三
岸川目丁四町平
番六〇六話電

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

嚴冬の征服者
福祿ストーブ
戸毎に福祿！四海は常春!!!
電話三七番へ
カタログ御申越下さい早速持參致します
福祿ストーブ福島縣一手販賣
阿部石炭商店
平停車場前

胃腸病妙藥
昔ハ料理ニ必ズ「シ、茸」ヲ用タリ今ハアマリ使ハズ甚不都合ノ次第ナリ「シ、茸」ヲ煎ジ臥寝前ニ服用スレバ胃腸ヲ整へ便通正シク氣分爽ナリ諸病ヲ未然ニ防グ効能アリ人助ノ爲メ廣告ス此ノ秋は茸類ノ出ル時節ナレバ新茸程効能著シ各家庭ニテ百匁位ツ、常備シ置ク專肝要ナリ

旅行カバンと毛布
御旅行と散策の秋が参りました。
馬鹿くしい最近の値上りを外に格安品を豊富に取揃へました。
毛布と一枚物二枚積等今が絶好のお買時です……
平ヤルツ
四〇四一電